

兵 庫 県
保 険 医 協 会

明石支部ニュース



No. 311
2019・12・15

発行

兵庫県保険医協会 明石支部
支部長 吉岡 巖

神戸市中央区海岸通一―二―三
神戸フコク生命海岸通ビル五階
電話 〇七八(三九三)一八〇一

第9回クリスマスパーティー

今年も魅力アップ! プロマジシャン・ロキさん
イリュージョン&テーブルマジックも堪能

グリーンヒルホテル明石

支部は11月30日、グリーンヒルホテル明石2階で、第9回目となるクリスマスパーティーを開催し、会員・スタッフ・家族など9医療機関63名が参加した。今年も毎年恒例のビング大会や、プロマジシャンのトリック・ロキさんマジック披露で盛り上がった。ゲスト出演で武村義人副理事長が「ブランテルの子守唄」「アリア」など3曲をクラシックギターで演奏した。参加者の感想を掲載する。

感想文



支部は11月30日、グリーンヒルホテル明石2階で、第9回目となるクリスマスパーティーを開催し、会員・スタッフ・家族など9医療機関63名が参加した。今年も毎年恒例のビング大会や、プロマジシャンのトリック・ロキさんマジック披露で盛り上がった。ゲスト出演で武村義人副理事長が「ブランテルの子守唄」「アリア」など3曲をクラシックギターで演奏した。参加者の感想を掲載する。

今年初めてクリスマスパーティーに私と小2の息子、年少の娘と参加し、とても楽しい時間を過ごせました。子ども達はパーティー前はビング大会を楽しみにしていましたが、パーティー後は、マジックが相当楽しかったようです。宙に浮く机、切断された...

お料理も娘がゼリーを鬼気迫る勢いで食べていたので、満足しているようでした。子ども達はギターの演奏を初めて見て、ギターを膝にのせて弾くことに感動していました。普段の日常では体験しないことをたくさんできてとても楽しかったです。ありがとうございました。

【榎林歯科 古森 亜理】

宙に浮く机、切断された...



ゲスト出演の武村義人副理事長(右から4人目)と明石支部役員



サンタ姿の榎林義雄幹事

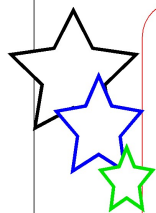
ビングの進行を担当した
原栄実子幹事



吉岡巖支部長が
乾杯の挨拶



武村先生がクラシックギター演奏



今年のBINGO 1等
森谷牛肉味噌漬
次回も多数ご参加を



ロキさんが各テーブルをまわってマジックを披露



第11回日帰りバスツアー

いま見るべし!!『延暦寺』根本中堂大改修見学と
近江八幡 町並み散策ランチは「まるたけ近江西川」
で近江牛すきやき一人鍋

比叡山東塔エリアの大講堂



国宝根本中堂大改修を見学して記念撮影

明石支部は、10月22日、毎年恒例のバスツアーを行い、13医療機関27名が参加した。天候にも恵まれ、参加者たちは秋が深まる滋賀県の延暦寺・近江八幡での散策などを楽しんだ。

明石支部例会にご参加下さい

■ 次回の例会は **12月26日(木) 18時30分～**

会場：旬菜 たにはら (明石駅から南へ徒歩6分)

会費：6,000円 (ブリ&豚しゃぶ鍋コース・飲み放題付)

ご参加の先生は下記事務局までご連絡ください。

● 明石支部では、これから企画してほしいアイデアを募集しています。

例会では、学術・雇用・経営対策など研究会企画、文化行事など先生方のアイデアを形にします。日々の診療での疑問などもフランクに意見交換できますので、ぜひお気軽にご参加ください。

● 支部ニュースへの投稿も募集しています。趣味のお写真などもお寄せ下さい。

TEL: 078-393-1817 / FAX: 078-393-1802

MAIL: n-shoko@doc-net.co.jp 担当事務局: 中西・本田まで

例会には会員の先生はどなたでもご参加いただけます。ぜひお気軽にご参加ください。

9月6日請願書を吉岡巖支部長(写真左)が、大西市議会議員(左から2人目)に提出し懇談した。国出文教厚生常任委員長(左から3人目)と紹介議員筆頭の寺井市議(写真右)も同席した。



難病の医療費助成制度の主な変更点

旧制度	新制度
症状の軽重を問わず助成	軽症者は医療費が高額でない限り助成対象外
56疾患	331疾患
・脊髄(せきずい)小脳変性症	・一次性ネフローゼ症候群
・もやもや病	・筋ジストロフィー
・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	・好酸球性副鼻腔(びくう)炎
・潰瘍性大腸炎	・強直性脊椎(せきつい)炎
・クローン病	・IgA腎症
など	などを追加

図1

(※)医療費総額が1ヶ月33,330円を超える月が過去1年に3回以上を満たし、大量の投薬で重症化するのを抑えているような場合を想定

指定難病医療費助成制度の問題は、2014年5月に難病法が成立し、2015年1月から新たな指定難病医療費助成制度が施行されたため、難病と指定された患者であっても、疾患ごとに定められた「重症度基準」によって「軽症」とされてしまうと医療費助成の対象外とされるようになったもの(図1)。「軽症高額該当」(※)という特例制度もあるが、2015年1月から2017年12月31日までの経過措置終了の前後で、難病医療費助成を受けられなくなった不認定患者は全国で15万人にのぼった。また、厚生労働省の研究班が行った調査では、不認定患者等の通院回数が5.36回から3.57回へと大幅に減少していたことが明らかになった。難病は、受診抑制により合併症の発症などで重症化すると、回復させることが困難になると難病患者団体は訴えている。また、定期的な受診が欠かせない疾病や、治療が長期にわたることも多く、治療費は経済的に大きな負担となる。

吉岡巖支部長が請願提出時に、「私の病院にも対象から外された方がおり、一番多い難病の「潰瘍性大腸炎」は1日に4回も下痢があっても『軽症』とされる。薬を飲み続けることで症状を抑えることはできるが負担が増えることでの治療中断による重症化が心配だ」と強調した。

明石市議会 全会一致で請願採択

「軽症」とされた難病患者も助成対象に

明石支部は、8月支部例会で「軽症」とされた難病患者を助成対象に戻すよう求める請願提出活動の実施を決定。9月明石市議会へ向け、すべての会派へ紹介議員の引き受けを要請したところ、「身近なところでも困っている声を聞いている」「請願の趣旨に賛同できる」として、自民党真誠会と日本共産党が引き受けた。9月6日に吉岡巖支部長が明石市議会へ請願書を提出し「治療中断による重症化が危惧される」と訴えた。9月24日の文教厚生常任委員会で審議され採択、9月30日の市議会本会議で全会一致で採択され、意見書が国に提出された。